



～夢と希望をはぐくむ県南の教育～

県南社教TIMES

第14号

令和元年10月23日

編集・発行

福島県教育庁県南教育事務所

板橋竜男

「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい事業」の御礼！

◆◆◆ 県南域内で、9, 246点の応募 ◆◆◆

共通の体験をもとに、子どもと大人がそれぞれの立場からの思いを十七字で表現する「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい事業」は、今年度も各学校等（幼・小・中・県立）のご協力のおかげで、9千点を超える応募数となりました。

また、福島県全体でも、過去最高の45, 477点の応募がありました。

この事業は、体験活動を通じた親子のふれあいや絆を深めるものであり、市町村教育委員会や各学校の皆様のご理解ご協力に感謝申し上げます。9月30日（月）には、退職校長会西白河支部・東白川支部24名の皆様にご協力いただき第一次審査会を行いました。

なお、入賞作品は、12月頃に発表される予定です。



＜第一次審査会 9/30＞

【応募した保護者の感想】

- ・子どもとの関わりを見つめ直す良い機会となるので、これからも続けてほしいです。
(幼稚園児の母)
- ・家族でいる時間がどんなことをしているのかな？と改めて思い出を振り返る良い機会となりました。とても楽しく考える時間となりました。(小学1年生の母)
- ・この支援事業に応募するきっかけに、東日本大震災の時、お腹にいた息子にその当時の様子や生活を教えたり話したりすることができ良かったです。(小学2年生の母)
- ・孫と四苦八苦しながらも作る楽しさと幸せを十七字で感じ、一層絆が深まりました。
(中学2年生の祖母)

【審査員の感想】

- ・昨年より出品数が減少しましたが、作品の質は向上しているように感じました。特に、中学校においては、定番の部活動や宿題のネタ以外に、良い材料や視点から表現された作品が増加したように思います。
- ・心に響く作品が毎年見られます。途中で感動する作品に出会い、涙が出ました。
- ・言語ではなく、文字にして表現することの意味を改めて感じさせられる機会となりました。
- ・学年が上がるにつれて、作品もすばらしくなっていくことを強く感じました。子どもたちが成長していく姿をうれしく思いました。

実践事例の紹介

本事業は、平成14年度に始まった「十七字のふれあい」事業として、平成29年度までの応募総数が、100万人を突破するなど、広く県民に親しまれており、県南域内でも、毎年多数の応募作品があるとともに、各学校等の中には単に作品募集するだけでなく、この事業を通して親子のふれあいや体験活動の重要性を啓発しています。今回は、その実践事例を紹介しします。

【白河中央中学校】

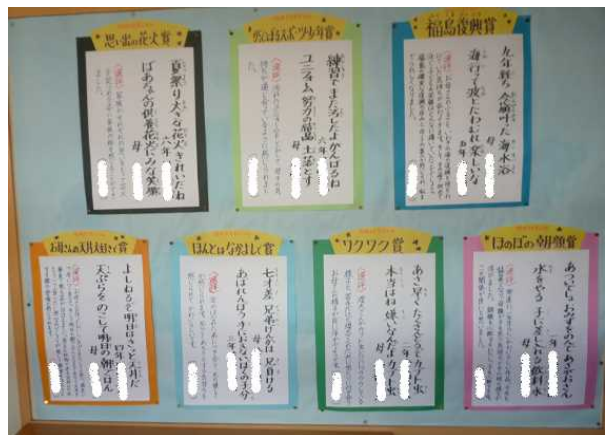
P T A総務委員会が各学年ごとに選考会を行い、15作品を選出し、入賞作品は文化祭で掲示するとともに、入賞作品集「十七字のふれあい校内傑作選」を作成し、P T A会長をはじめ役員の方々の選評も入れて全家庭に配り、生徒と保護者との関わり的重要性を啓発しています。

【棚倉小学校】

担任外(校長・教頭・教務・養護教諭等)の教員が校内審査を行い、選んだ作品にあったネーミングでの賞をつけ、審査した教員が選評を記入し、保護者が来校した際に見やすい場所に掲示することで、親子の絆や体験活動の大切さを伝えています。

【泉崎村教育委員会】

県の審査会終了後に、県の入賞作品以外のすべての作品(幼・小・中)を教育委員会で審査して、村独自に表彰を行います。十七字の作品づくりを通して、親子でのコミュニケーションの大切さや体験等による感動のすばらしさを広げています。



＜棚倉小学校の校内掲示＞

地域人材活用と体験活動の実践

各学校及び関係機関等では、地域の人材活用・体験活動や社会体験の充実に向け、創意工夫ある教育活動を実施しています。



稲作体験（稲刈り）9/24
【社川小学校】

「ひがししらかわ輝くふる郷体験事業」稲作指導者・地域コーディネーターをはじめ、地域の方々やPTA約40名の協力で、4～6年生が稲刈りを行いました。今回は、学区内に回覧板で呼びかけを行い、多くの方の協力が得られました。このような協力体制により、教員の多忙化解消にもつながっています。



稲作体験（脱穀）10/4
【埴小学校】

「ひがししらかわ輝くふる郷体験事業」 「台宿水と資源を守る会」の6名の皆様のご指導で、5年生が学校田で育てた稲の脱穀を行いました。足踏み脱穀機や千歯こきを使って、子どもたちは昔ながらの脱穀を体験しました。守る会の皆様には、田植えから脱穀までの準備や指導・水田の管理と長年にわたりお世話になっています。



建設現場見学会（R289）10/7
【鮫川小学校】

「ひがししらかわ建設人材育成事業」 過疎中山間事業での県南建設事務所との連携で、6年生が総合学習の一環として実施しました。地元企業の協力により、測量・ドローン撮影・重機乗車・タンパー掛けなどの体験ができました。これからはICTがますます重要になることも学習し、キャリア教育にも関連した学習内容でした。



家庭科出前講座（3軒）9/27
【白河中央中学校】

親業サークル輝々（キラキラ）代表の今野登志子先生より家庭の役割と子どもの関わりについて学習しました。生徒は講義や演習をとおして、「聞く・話す」の大切さや心に寄り添う必要性を学びました。



放課後子ども教室 9/12
【おのだなかよし教室】

伝統行事「お月見さま」を行いました。校長先生とコーディネーターのお話、お月見さまの歌の後に、手作りのお団子をみんなでおいしくいただきました。地域の方との交流も深められました。



放課後子ども教室 9/28
【西郷村合同イベント】

村内の3教室の親子と指導者が集まり、「子ども祭り」を西郷村民体育館で行いました。県レクリエーション協会のご指導で、親子レクやラダーゲッターなどのゲームで楽しい一時を過ごしました。

県南教育事務所の連携事業

家庭教育支援プログラム（9/7）・・・三神小PTA

これは県南独自の事業で、PTA行事や家庭教育講演会などの講師を県南教育事務所が紹介します。

三神小学校のPTA教育講演会では、講師に国立那須甲子青少年自然の家の蓮見直子次長をお迎えし、「子どものやる気を引き出すエッセンス」という演題で講演をしていただきました。講演では、国や研究者のデータをもとに、早寝・早起き・朝ごはん及び体験活動の重要性を伝えました。また、双方向の研修となるようクイズを入れるなどして、保護者の方に理解を深めてもらうことができました。



なすかしの森ファミリーフェスティバル（10/6）・・・国立那須甲子青少年自然の家

県南教育事務所等との連携により、学校や関係機関がステージ発表や作品展示などを行いました。当日は、たくさんの方が来所し、体験ブースや飲食ブースなどで、「なすかし」ならではの本物の体験活動や交流活動ができました。また、昨年度日本一になった白河一小的器楽クラブは、とても感動的な演奏で来場者を魅了しました。涙を流して聴いている方もいました。



＜西郷支援学校の作品展示＞



＜あぶくま高原美術館の展示＞



＜白河一小器楽クラブの演奏＞